

第4回 西蒲区自治協議会 議事概要

日時：令和3年9月30日（木）

午後3時00分から午後4時30分

場所：巻地区公民館 3階 小ホール

事務局 (金子地域総務課長 補佐)	<p>ただいまから令和3年度第4回西蒲区自治協議会を開催します。</p> <p>初めに資料の確認を行います。本日机上に西区自治協議会広報紙、秋葉区自治協議会広報紙及びヒヤガーデンのチラシを配付しています。ご確認をお願いします。</p> <p>それでは、これ以降の会議については、新潟市区自治協議会条例第9条の規定により、長井会長より議長として進行をお願いします。</p>
議長 (長井会長)	<p>新型コロナウイルス感染症が全国的に下火になりましたが、新潟市はなかなか下火にならない状況です。お互いに気をつけながら、会議の運営にご協力いただきたいと思います。</p> <p>初めに本日の委員の出席状況と傍聴者について、事務局から報告をお願いします。</p>
事務局 (金子地域総務課長 補佐)	<p>委員の出席状況についてご報告します。委員30名の内、出席者は26名、欠席が4名となります。過半数の出席がありますので、新潟市区自治協議会条例会議運営規定を充足していますことをご報告します。</p> <p>また、傍聴については報道の方が1名ご来場しています。事務局では写真撮影並びに録音を行いますので、ご了承ください。</p>
議長 (長井会長)	<p>それでは、各部会の状況を総務部会、保健福祉部会、まちづくり・産業部会の順に、広報部会も併せてご報告をお願いします。</p> <p>初めに、総務部会黒川部会長をお願いします。</p>
黒川委員 【総務部会】	<p>総務部会から報告します。</p> <p>8月27日に行った第4回総務部会では、令和4年度特色ある区づくり事業の区役所企画事業の部会案について協議しました。その結果、「1西蒲区の食文化の魅力PR」、「2買い物バスやコミュニティバスの運行」、「3旧西蒲5町村のまつりを一堂に会して、区民参加型の西蒲絆まつり（仮称）を開催する」という3つのアイデアを提示しました。また、今年度の区自治協議会提案事業については、防災、教育、スポーツより防災にテーマを絞り、協議を進めていくことに決定しました。</p> <p>先ほど行った第5回総務部会では、今年度及び来年度の区自治協議会提案事業について協議を行いました。今年度の区自治協議会提案事業の検討では、防災をテーマにした事業の実施に向け、アトラクションやスケジュールの内容について協議を行いました。先ほど長井会長からお話がありましたように、新型コロナウイルス感染症がまだ油断できない状況ですが、実施できるよう検討中です。</p> <p>来年度の区自治協議会提案事業の検討では、スポーツ、レクリエーションを通じて、「深めよう地域の絆」をテーマに意見交換を行いました。</p>

<p>議長 (長井会長)</p>	<p>次に、保健福祉部会の塩澤部会長お願いします。</p>
<p>塩澤委員 【保健福祉部会】</p>	<p>本日の開催も含めて、7月、8月、9月の部会では、令和4年度特色ある区づくり事業の区役所企画事業の部会案及び区自治協議会提案事業について協議しました。協議の結果、区役所企画事業の部会意見としては、違反ごみ、ばい捨て問題、健康寿命延伸に向けた取組み、権利擁護、高齢化、子育て支援について、区に意見を提出しました。</p> <p>また、区自治協議会提案事業については今年度に引き続き、保健福祉部会が所管する分野における調査、研究を行い、地域課題の解決に向けた取組みを進めるという事業内容とし、幅広い課題に対応できる事業を提案することとしました。次回以降、必要に応じて臨時部会も開催しながら詳細な事業内容を検討していきたいと考えています。</p>
<p>議長 (長井会長)</p>	<p>次に、まちづくり・産業部会の竹内部会長お願いします。</p>
<p>竹内委員 【まちづくり・産業部会】</p>	<p>まちづくり・産業部会から報告します。7月、8月、9月の部会では、区役所企画事業の部会意見の決定と、区自治協議会提案事業についての意見交換を行いました。</p> <p>協議の結果、区企画事業の部会意見としては、「1にしかんないろ野菜や中之口農業体験公園を活用した普及啓発」、「2西蒲区の魅力を伝える修学旅行プラン、日帰り体験学習プランなどの企画」、「3旧間瀬保育園を活用した魅力発信」について意見を区に提出しました。</p> <p>また、区自治協議会提案事業については、西蒲区の魅力発信の方法、そして西蒲区の一体感の醸成をテーマに、事業案を協議しました。結果、まちづくり・産業部会としては、ドローンを活用した西蒲区の魅力を伝える動画の制作を検討中です。ドローン活用の趣旨としては、ドローンの活用で海岸線も含め、ここから西蒲区の成り立ちやストーリーに迫り、そしてこの地域の魅力や人にも触れ、区の一体感の醸成を図る目的を持ちます。完成後は、教育、観光、地域へと広く活用していくことを検討しています。</p> <p>先ほどの部会では、撮影箇所の意見集約の方法やスケジュール案について協議しました。今後も事業の具体化に向けて意見交換をしていきたいと思えます。</p>
<p>議長 (長井会長)</p>	<p>次に、広報部会の大橋部会長お願いします。</p>
<p>大橋委員 【広報部会】</p>	<p>広報部会から報告します。広報部会では、今回の本会議までに会議を2回開催しました。</p> <p>8月20日に第1回の会議を行い、部会長並びに副部会長の選任、西蒲区自治協議会通信「じちきょう」第15号の発行スケジュールの検討を行いました。</p>

	<p>協議の結果、広報部会長に私大橋と、副部会長に田中久美子委員が選任されました。</p> <p>発行スケジュールについては、「じちきょう」第15号は今年度の11月15日、第16号は令和4年3月15日に発行することとしました。第15号の各ページの紙面構成についても検討を行い、今年度から紙面構成を、縦方向の掲載へ変更することとしました。</p> <p>紙面の内容については、オリンピック・パラリンピックが開催されたので、表面は西蒲区のスポーツ団体について及び第8期西蒲区自治協議会のスタートということから、会長、副会長及び各部会の紹介について掲載することとなりました。</p> <p>裏面については、西蒲区のまち歩き団体一押しの観光スポットを紹介する記事を掲載することとしました。</p> <p>また、2回目は9月24日金曜日に開催し、委員5名出席と印刷業者の方で検討を行いました。</p> <p>協議の結果、一部記事の文言、レイアウトの修正を行いました。</p> <p>次回は10月12日火曜日午前10時から開催する予定です。</p> <p>以上、広報部会からの報告です。</p>
<p>議長 (長井会長)</p>	<p>ただいまの各部会からの報告に関して、ご意見やご質問等ありますでしょうか。</p>
<p>島山委員</p>	<p>まちづくり・産業部会の、ドローンを活用した西蒲区の魅力を伝える動画作成についてですが、実は1980年、それから10年後の1990年に新潟日報から、航空写真の写真集が出ています。利益が出なかったのか、それ以降写真集は出ていません。その写真集を見ると、西蒲中央病院が建てられていたり、非常に懐かしく面白いのですが、航空写真はドローンと違い、相当高いところから撮影出来ますが、航空写真の使用などのお考えはありますか。航空写真は高いところから撮るので、町の全体が撮影できます。</p>
<p>竹内委員 【まちづくり・産業部会】</p>	<p>ドローンで動画撮影した場合、動画で撮影したものを写真にもできます。予算の範囲の中でできるのであれば可能なことだと思います。私どももまだどういう形で映像を撮るか、どこを撮るかについては、今後詰めていくところでして、写真は十分撮れるはずです。</p> <p>高度の問題になりますと、2か月ほど前、規制がかなり緩和されて法律が変わったというのも新聞で拝見しましたし、この時代に様々なところでドローンが活用されていますので、私どもが考えているレベルも、ものすごく高いところまで行って撮ろうというわけではないので、せいぜい西蒲区の角田山から弥彦山、多宝山など、高くてその程度と考えています。とにかく、まだ検討中ですので、これからドローン業者の方々と相談して、予算の中でどれだけのことができるのか、本日もその話で時間いっぱい使いましたけれども、少しずつ調べていきながら、決定した時点でお知らせします。</p>

<p>畠山委員</p>	<p>できましたら、西蒲映画のときに西川地区が全く映っていなかったの で、満遍なく撮っていただきたいと思います。</p>
<p>竹内委員 【まちづくり・産業 部会】</p>	<p>承知しました。</p>
<p>議長 (長井会長)</p>	<p>他にありませんか。 ないようですので、各部会の状況報告はこれで終了します。 それでは、議事に入ります。議事 1、令和 4 年度特色ある区づくり事業 についてです。地域総務課長より説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (野崎地域総務課 長)</p>	<p>議事 (1) 令和 4 年度特色ある区づくり事業「区役所企画事業案」につ いてご説明します。</p> <p>お手元の A4 縦の資料 1-1 をご覧ください。当課より資料について説明 を行い、質問等については事業担当課より回答します。</p> <p>本日は、記載の 14 事業を提案します。各事業について、区ビジョンま ちづくり計画の方針に沿って立案しており、表題に記載する方針順に記載 しています。上段の表に記載の魅力あふれる農水産物を供給するまちとし ては、ブランド力向上と交流促進として、産業観光課が 3 つの事業に取り 組みます。なお、3 事業とも 2 年目の取組みとなります。1 つ目、「にしか んないろ野菜」ブランド強化・販売拡大事業です。にしかんないろ野 菜のブランド化及び産地確立のため、配送費を補助するなど、他区や周辺 市町村などの飲食店への定期的な取引につながる足がかりとなる事業を 実施することで販路を拡大し、産地として地盤を強固なものとしていくも のです。</p> <p>次に、にしかん未来につながる持続可能な農業推進事業です。これは新 型コロナウイルス感染症の影響もあり、農産物の生産過程において徹底し た衛生管理などが求められていることなどを踏まえ、地域で安心・安全な 農産物の生産につながる農業生産工程管理を実践している GAP 認証取得 者の経験や知見などを情報共有し、GAP の取組内容や安心・安全な農産 物情報などの消費者への発信、GAP 指導員による研修会開催、GAP 認証 更新費用補助などを実施して、未来につながる持続可能な農業の生産体制 づくりを支援していくものです。</p> <p>3 つ目、産地を守る農業生産被害防止対策事業です。これは、近年発生 しています野生動物、主に猪による農産物被害などに対応するため、集落 環境診断などにより現地の状況把握や集落勉強会の経験を基に、さらなる 具体的な対策を実施することにより、農産物の被害防止や農業従事者の安 全性の確保に継続的に取り組むものです。</p> <p>次に、下段の表に記載の観光とレクリエーションのまちです。こちらは 観光資源の開拓と保全として、同じく産業観光課が 3 事業に取り組むも のです。最初は、新規事業のにしかん新ツーリズム誘客事業です。これは新 型コロナウイルス感染症蔓延の長期化に伴い、著しく落ち込んだ観光需要</p>

を取り戻すため、個人旅行客をターゲットとした旅行商品の造成や、オンラインを活用したプロモーション活動などによりコロナ禍に対応した誘客促進を図ることで、観光地西蒲区の再興を目指すものです。

次も新規事業の新たな観光コンテンツ発信事業です。これはコロナ禍に対応し、家族や小グループをターゲットに魅力的な観光コンテンツを洗い出し、磨き上げることで地域の魅力を高め、新たな魅力を発信することで誘客活動につなげていくものです。

最後に、「矢垂の郷」賑わいづくりプロジェクト事業は2年目の取組みとなる事業です。これは、福井地区において環境整備をしている矢垂の郷を観光スポットとして定着させるために、植栽した樹木の継続的な環境整備、運営に係る地域組織の育成、強化を行い、矢垂の郷を会場にしたイベントを実施することにより、知名度の向上と交流人口の拡大を目指す事業です。

引き続き、裏面をご覧ください。健康増進とスポーツ・レクリエーションでは、2つの事業に取り組めます。最初は健康福祉課の新規事業であるにしかん健康プロジェクト～のぼそう健康寿命～です。これは、西蒲区の健康寿命の延伸に向け、高齢者だけではなく、もう少し若い時期からの健康寿命への取組みにも力を入れ、広く栄養、体操並びにお口の健康の大切さを普及させる活動、ウォーキングの習慣化などを目指した情報発信に取り組むものです。

次の地域総務課のジュニアスポーツ教室開催支援事業も新規の取組みです。これは、スポーツを通じた健康づくり、スポーツ活動の活性化を図るため、スポーツ活動の周知やジュニア育成を目的とした体験教室、技術講習などの開催を支援し、スポーツに親しむ機会の提供と支援を行い、スポーツ人口の拡大を図るものです。

次の歴史と文化を守り伝えつづけるまちでは、新規事業の西蒲区の文化再発見に取り組めます。西蒲区の歴史文化について、区内外の方に興味、関心を持ってもらい、次世代への継承を目的とし、西蒲区内の歴史文化施設などに関するガイドマップなどの作成や施設見学、体験につながる情報の発信などに取り組めます。

次の人の和でつながる安心・安全なあたたかいまちでは、安心・安全で快適な生活基盤づくりとして、次の3事業に取り組むものです。一番上のにしかん地域防災共育事業ですが、こちらは3年目の取組みとなります。引き続き高齢化の続く西蒲区で、地域の次世代リーダーの育成を目指し、区内の6中学校の中学生を対象とした防災教育に取り組むとともに小規模な自主防災会への支援を行い、地域の防災力の向上に取り組むものです。

次の同じく地域総務課のにしかん未来デザインプロジェクトですが、こちらは2年目の取組みになります。区の課題解決を加速させるとともに、未来に向けたまちづくりを進めるため策定したにしかん未来デザインのアクションプランを効果的に実施し、地域と一体となってまちの持続的発展

	<p>に取り組むための一つとして、令和3年度に実施予定の市場調査などを基とし、西蒲区内の暮らしの提案、発信を行うことにより、移住定住促進に取り組むものです。</p> <p>3つ目が区民生活課の未来につながるしかんこども環境啓発事業ですが、こちらは新規の取組みになります。豊かな自然環境に恵まれた西蒲区を未来の子どもたちに残し、より豊かに暮らせる環境を守るため、河川美化啓発ポスターコンクールの実施により、身近な川を通して子どもたちの環境保全への関心と意識をはぐくむきっかけを作り、未来につなげていくものです。</p> <p>次の支え合い学び合う人の和づくりですが、こちらについては健康福祉課が2つの事業に取り組むものです。1つ目が、ふれあい、支えあう子育て支援事業ですが、これは3年目の取組みになります。育児に向き合うお母さん方が感じる子育てへの不安や孤立感の軽減のため、安心して子どもを産み育てられる環境づくりとして、親同士が学ぶ子育て講座や、ミュージックセラピーといった音楽を使った養育教室などに引き続き取り組むものです。</p> <p>最後になりますが、地域いきいきながいきサポートです。こちらは2年目の取組みとなります。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしを続けられるよう、地域の茶の間、医療機関、地域包括支援センターなどと連携し、地域包括ケアシステムの構築へ向けた取組みを継続して行うものです。具体的には、作業療法士などの専門職派遣により、運動不足解消や認知症予防に取り組むほか、弁護士による法律相談で高齢者の権利擁護に取り組むものです。</p> <p>以上が計画している素案の14事業です。</p> <p>そして、今後の流れになりますが、皆さまからのご意見を踏まえ、事業内容を精査し、区自治協議会提案事業と併せて10月に原案の作成を予定して進めてまいります。</p> <p>続きまして、資料1-2をご覧ください。こちらのA3の資料については、先般7月の区自治協議会で委員の皆さま方から特色ある区づくり事業についてアイデアを募集したところ、地域活性化、ごみ問題、空き家対策、観光などの地域課題について、多くの提案をいただきました。このいただいた提案に対し、担当課から事業の状況の説明並びに考え方をまとめ、表にしたものです。提案いただいた内容については、来年度の区づくり事業を始めとし、これまでの区行政施策の立案並びに事業執行時に区民の声として活用させていただきたいと思っております。</p>
<p>議長 (長井会長)</p>	<p>ただいまの件について、ご意見やご質問等ありますでしょうか。</p> <p>ご意見、ご質問等はないようですが、先ほど地域総務課長からご説明のあったとおり、いろいろな事業について、皆さまから出た意見も併せて、新年度に向け市の中でも検討しながら、事業計画を立てていくということですので、ご了解いただけるでしょうか。</p>

各委員	(「異議なし」の声)
議長 (長井会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、報告に入ります。報告 1、新潟市財産経営推進計画の改定についてです。財産活用課から説明をお願いします。</p>
事務局 (佐野財産経営推進担当部長)	<p>新潟市財務部財産経営推進担当部長の佐野と申します。</p> <p>日頃新潟市政について、格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、区自治協議会委員の皆さまにおかれましても、区政の発展のため、日頃熱心かつ積極的な活動に取り組んでいただき、改めて感謝申し上げます。</p> <p>新潟市では、本格的な人口減少社会を見据え、2019 年度から今年度までの 3 か年を集中改革期間として位置づけ、これからの財政運営の基盤づくりを行うための様々な取組みをしているところです。これから説明を行う財産経営推進計画の改定についてもその取組みの一つということで、将来に向けて安心・安全な公共施設を持続的に管理運営していくことを目的として取組みを行っているものです。</p> <p>区自治協議会の皆さまへは、公共施設再編の必要性、再編の仕方、それから再編の案を最終的にお示ししたいと考えていますので、今月以降何回か会議にお邪魔しますが、よろしくをお願いします。</p> <p>説明は室長の兼島から行います。</p>
事務局 (兼島財産経営推進室長)	<p>本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>部長からも説明がありましたが、当課では市民の皆さまの財産である公共施設の再編に取り組んでいますが、本日第 1 回目として、この取組みの背景と新潟市の公共施設の抱える課題、その課題に対する取組みを、簡単ではありますが、説明します。</p> <p>資料 2-1 と資料 2-2 の 2 種類ご用意していますが、本日は A3 の資料 2-1 を用いてご説明します。もう一つの資料 2-2 はもう少し分かりやすくした資料になっていますので、後ほどご覧いただければ幸いです。</p> <p>では、A3 の資料 2-1 をご覧ください。初めに、「1 背景」です。皆さまもご存じのとおり、日本は世界に類を見ない少子超高齢化を背景に、人口減少が加速しています。新潟市も同様で、2005 年(平成 17 年)の約 81 万人をピークに人口は減少しており、このままの状況が続くと 2045 年(令和 27 年)辺りでは 70 万人を下回る見込みとなっています。また、その人口構成を見ますと、15 歳未満の年少人口と 15 歳以上から 64 歳以下の生産年齢人口がいずれも約 30%減少する一方で、65 歳以上の高齢者人口は約 20%増加する見込みとなっています。</p> <p>こうした人口減少と人口構成の急激な変化は、社会保障を始めとした様々な分野に影響するため、サービス給付と負担のあり方が全国的な課題となっています。公共施設についても同様で、人口減少により施設を利用される方が減少することが予想されますので、人口規模に合った公共施設のあり方を今後のまちづくりの方向性と併せて地域の皆さまと考えていく</p>

必要があります。

次に、「2 公共施設の現状と課題」についてです。高度経済成長を背景とした人口増加に合わせて住民福祉の向上を図るために、1975年から1984年の昭和50年代が中心になりますが、その10年間に集中して整備された施設が本市の公共施設の約3分の1を占めています。一般的に、建設から40年目を目途に大規模な改修が必要となっており、この頃に建てられた施設が一斉にその時期を迎えつつあります。また、全ての施設をそのまま維持していく場合に、今ほど申し上げた大規模な改修等の費用や、寿命を迎えた施設を新たに建て替えようとした場合の費用を合計すると、今後50年間で約9,000億円かかる見込みとなっています。これは単純平均の50年で割りますと、年間約180億円となります。これまで1年間にかけてきた改修や建替費用の約120億円と比較すると、毎年59億円という大きな負担がさらにのしかかることとなります。今ほど申し上げた建物の維持をしていく費用は、ハードの部分です。それ以外に、公共施設でサービス提供を行うには人件費や光熱水費といった維持管理費用、いわゆるランニングコストといわれるものですが、そういった費用も毎年かかります。

新潟市財産白書で対象としている909施設の令和元年度の維持管理費用は約967億円かかっています。市民一人当たりですと12万3,000円を負担していることとなります。冒頭で申し上げたとおり、今後も人口が減少する見込みとなっていますので、市民一人当たりの負担は今後さらに大きくなっていくことが予想されます。

こうした費用がかかる中、人口減少や少子超高齢化の影響により、市の税収の増加がなかなか見込むことができない反面、介護や医療といった社会保障などの費用増加は避けられないため、公共施設の適正な管理に支障が生じるといったことも懸念されます。

次に、「3 施設再編の必要性」です。このような現状を踏まえると、公共施設を現状のまま維持することは困難なことから、施設の集約化などの再編に取組み、できるだけサービス機能の維持を図りながら、安心・安全に利用できる公共施設を次世代に引き継いでいく必要があると考えています。

そこで、資料の右側、「4 これまでの主な取り組み」をご覧ください。新潟市では、まず全体の考え方を統一してお示しするため、施設の総量は削減しながらも、サービス機能はできるだけ維持していくということを基本方針とした新潟市財産経営推進計画を平成27年度に策定しました。総量削減とサービス機能をできるだけ維持していくという2つの背反するような要素をどのように具体化していくのか、どのように再編を進めていくのか、その方法として、地域の実情をよくご存じの地域の方々とは話し合いを進め、概ね中学校区を単位とした地域別実行計画を策定して施設再編を進めていくことにしました。

その地域別実行計画について説明したものが、資料中段の青い四角囲み

になります。地域別実行計画は 55 の中学校区を単位に策定しています。策定に当たっては、地域の意向や施設の特徴などに配慮するため、地域の方々からゼロベースで地域課題や公共施設のあり方を話し合ってもらったワークショップを複数回開催するとともに、その話し合いの内容をまとめた広報紙をその中学校区内全戸に配布します。そういった広報紙を発行することで、ワークショップに参加していない方々の意見を募集し、地域の方々とは丁寧な議論を重ね、合意を図りながら策定しています。これまでに、西蒲区の潟東地区をトップバッターとして、北区の葛塚、木崎、江南区の曾野木、西区の坂井輪、これら 5 地域で策定し、その計画を基に施設の再編を進めてまいりました。これらの概要については、A4 の資料の 8 ページ、9 ページに掲載していますので、後ほどご確認いただければと思います。また、ワークショップの具体的な資料については新潟市のホームページからもご覧いただけますので、ご参考ください。

このように、地域別実行計画の策定を着実に進めていたのですが、いくつかの課題が出てまいりました。青囲みから矢印が出ている先の部分になるのですが、取り組みの中で見えてきた課題になります。一つ目が、利用者が広域にわたる総合体育館や文化会館といった大きな施設の検討が地域では難しいことです。

二つ目は、1 地域の策定を丁寧に行うため、全地域の策定まで長い期間がかかり、施設の老朽化など、施設のあり方の検討が必要な時期に計画ができていない地域があることや、今後、老朽化した施設がどんどん増えてくることを考えますと、計画策定を加速化させる必要があります。

三つ目は、地域内の施設の状況をお示しし、一から検討してまいりましたが、まず、市はどのように考えているのかと聞かれる場面が多々ありました。こうした課題を解決するため、「5 課題解決に向けた新たな取り組み」に沿って現在進めています。

地域に身近な施設の再編は、地域の方々とは丁寧な議論を重ねて策定する地域別実行計画により方針を決定するというやり方はそのままとし、残り 50 の地域でも計画策定を進めてまいります。その上で、一定のルールのもと、地域ごとに再編の案を一旦市で作成し、これを地域の皆さまと議論する出発点とすることで、先ほどの課題の 2 つ目、3 つ目を解消し、計画策定の加速化に繋がりたいと考えています。また、利用者が広域にわたる施設の今後については、同様の再編案をお示しし、今後の施設の方向性を決めていくことで、一つ目の課題を解決していきます。地域別実行計画、地域密着施設の再編計画に当たりますが、この計画策定を加速させていかなければならないということをご説明しましたが、加速化させていくためには、複数地域の計画策定を同時並行で行う必要があると考えています。

これまで、平成 27 年度に先ほどご説明した財産経営推進計画を策定してから 5 か所で地域別実行計画の策定をしてきましたが、ペースにしますと 1 年に 1 か所となっています。この進捗で進めていくと、残り 50

	<p>の中学校区がある中で、50年かけて策定するのかということになりますので、丁寧な議論をして行きつつも、複数地域で同時並行に進めていけるようにしていきたいと考えています。</p> <p>また、策定する地域の順番についてですが、地域における施設の老朽化の状況や学校などの再編の動きなどを見ながら決定したいと考えています。</p> <p>最後に、今ほど説明しました再編の案や再編案に基づいた再編の目標値など折り込み、新潟市財産経営推進計画を改訂することで、市民の皆さまと私ども市との認識を共有し、この再編を進めていこうと考えています。</p> <p>次に「6今後の具体的な予定」になります。再編案を含む計画の素案を確定した後、再編案の策定ルールなども併せ、また改めて皆さまにご説明を行うとともに、パブリックコメントを実施し、市民の皆さまの声をお聞きしたいと考えています。その上で、今年度末までに改定後の計画の成案を公表し、次年度以降、各地域の実行計画策定に順次着手していく予定です。</p> <p>なお、実際に施設を統合したり再編したりというタイミングは、実行計画を策定した後になりますので、具体的なお話は随分先の話になるとお考えください。</p>
議長 (長井会長)	これはなかなか難しい問題ですが、皆さまからご意見やご質問をいただきたいと思います。
五十嵐委員	今ほどお話しのとおり、具体的な話はかなり先になると思いますので、区自治協議会での意見聴取も大事ですが、未来ある若い人の話をよく聞いて、これから必要なものを造っていただきたいと思います。どうせ造るのであれば後悔しないように建物を造ってもらいたいと思います。質問ではありません。要望です。
事務局 (佐野財産経営推進 担当部長)	実際に実行計画などを作る際には、ワークショップを開催し、幅広い年代の方、色々な属性の方をお呼びし、人数にすると大体30名から50名くらいの方の意見を聞きながら進めていくことになりまして、今後もそういった方針で進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。
古島委員	少し話が変わるかもしれませんが、先ほど、地域に詳しい方々と対話するということでしたが、その地域の方というのは具体的にどういう方を指すのでしょうか。
事務局 (兼島財産経営推進 室長)	西蒲区の中でも潟東地域が既に地域別実行計画が策定されています。その際にお集まりいただいた方の属性を一例に取りますと、自治会運営に携わっている方やその施設の利用者、例えば、学校もありますのでPTAの方々や、保育園などがある場合、保育園の保護者の代表の方や、公民館やコミュニティセンターがあれば利用者、利用団体の代表ですとか、そういった施設に関わる方々、中学校区内の住民の方々、そういった方々の内30名から50名程度をワークショップにお呼びし、それぞれのテーブルで検

	<p>討していただく形で進めているのですが、その 30 名なり 50 名程度の方々だけの意見を聞くのではなく、ワークショップ終了後、必ずそのワークショップの中でどのようなことが話し合われ、どういった意見が出たかということを一枚の広報紙として本日お渡ししたような A3 程度の資料に落とし、中学校区内の家庭に全戸配布します。そこで、「こういう意見が出ていますがご意見はないでしょうか。」という意見を募集する期間を募りながらワークショップを 1 回 1 回、こういうことが議論されましたという報告も含めてお知らせしています。</p>
古島委員	<p>ワークショップに参加される 30 名から 50 名の方々はどうなたがどのように選定するのでしょうか。</p>
事務局 (兼島財産経営推進室長)	<p>こちらは私どもと、当時の潟東の例ですと、西蒲区の地域総務課とで詰めてまいりました。</p>
古島委員	<p>何か基準はあるのでしょうか。</p>
事務局 (兼島財産経営推進室長)	<p>特に基準はありませんが、地域事業や地域の課題、施設など、よくご存じの方に来ていただき、議論いただければという思いで選定しています。</p>
畠山委員	<p>2、3 点質問します。ご説明をお聞きして、正直よく分からない点がたくさんあります。</p> <p>潟東地域実行計画を拝見しました。これを見ると、ここも廃止になるのかということに危惧しています。</p> <p>お話の中で、人口減少が進んで市の公的施設の利用者が減少しており、これに費やす管理運営費が 909 施設で 967 億円かかるということで、市民一人当たりの負担額が将来的に 14 万 6,000 円かかると、数式を並べてお話いただきました。公共施設の統廃合を理解してもらうために前段でこのような話をされたのかと思って聞いていました。</p> <p>財政難というのは、聖籠町や出雲崎町など特別なところを除いて、県内全て同じです。特に新潟市は、言いづらいのですが、前市長時代に大きく膨らんだ市債返済に追われて、やることといえば予算のカットと事業の縮小、そして今度は公共施設の統廃合です。少しきつい言葉になるかもしれませんが、例えば斜陽の会社にやってきた新社長がよくやる手法だと私は考えます。長い目で見ると、必ず体力がなくなるのではないかと思います。</p> <p>それで、第一の質問は、地域別実行計画策定のところですが、「中学校区を基本単位として、市内 55 の公共施設の最適化を検討し、実行計画を策定します。」と載っています。最適化というのは何を基準にしているのでしょうか。私が住む西川地域に負の公共施設は、私が知っているものを見る限りないと思います。地域にいくつもない公共施設の利用団体が年々増えているようです。</p>

	<p>第二の質問は、10 ページの②についてです。地域別実行計画の策定で、策定済みの地域と未策定地域で不公平感がでると書いてあります。何をもちょう公平と不公平なのか、お聞かせいただきたいと思います。</p> <p>第三の質問は、④で地域でのワークショップ等で、市の考える施設の方向性を問われる場面が頻発と記載されています。市はお金がないから廃止統合してくださいと言いながら、55 の中学校区の統廃合については具体的に分かりませんと言っているのと同じなのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。また、④の下段で、市の考えを示さないと有意義なコミュニケーションが成り立たないとありますが、これは当たり前なのではないでしょうか。これを地域に出したら驚くと思います。</p> <p>以上、ご回答いただきたいと思います。</p>
<p>事務局 (兼島財産経営推進室長)</p>	<p>まず、1 点目の最適化というのはどういう意味かという点については、例えば一例ですが、2 つ似たような施設があります。あまり活用されていないようなフロアがある場合、もう 1 つの施設の機能を空いているフロアに持ってくると、例えば、住民の方からすると、その施設で 2 つの機能を持つこととなりますので、1 回行けば 2 つの用を足すことができる場合もありますし、その施設に集まってくる方々との、交流とまでは行かないかもしれませんが、人流が生まれるということはありません。もちろん、良いことばかりではないかもしれませんが、もう片方は廃止されてしまうということで、足の確保などの問題が出てきます。ただ、施設の使われ方としては、未利用とまではいかずとも、もう少し活用しても良いのではないかとと思われるようなスペースがあるようであれば一緒にしてしまう、そういう効率的な使い方をするということで、最適化という表現を使っています。</p> <p>二つ目のご質問について、策定している地域と策定していない地域での不公平感ということですが、このまま 1 年間丁寧に議論を進めていく中で、私たちも限られたマンパワーの中で地域の方々と議論を進めながら行っていますので、どうしてもこれまでの体制ですと、1 年間に 1 地域を策定するのが限度でした。このままのペースで行くと、新潟市内にはあと 50 地域ある中で 1 年間に 1 か所のペースですと、50 年かかります。そうすると、先んじて地域の方々に一定程度のご負担をお願いしながら先に取り組んだ地域と、まだ取り組んでいない地域と不公平感が出てきます。そういう意味での不公平感です。先にご負担をいただきながらも策定していった地域と、まだ取り組んでいない地域との不公平感は、このまま放っておくと出てくるのではないかというのが私たちの懸念だったため、今回全地区の再編案をお出しする予定です。来年度一気に 50 か所、全てのマンパワーをつぎ込んで一気に取り組みますということにはできないのですが、それでもなお 1 年に 1 か所ではなくて、複数地域で取り組んでいこうということを考えています。</p> <p>三つ目は、市の考える施設の方向性を問われているわけですので、市の考え方を示さないと有意義なコミュニケーションが成り立たないという</p>

	<p>ころです。潟東地域の検討の際、「潟東地域の地域課題はどんなことがあるでしょうか。私たちとしては、やはり今後のことも考えて少しずつ施設を減らしていきたいのです。しかし、皆さまが考えている地域課題を再編という切り口で何とか解決できないでしょうか。」という問い方をしてきました。そこで、ゼロベースで考えていったのですが、別の地域では、ワークショップの中のテーブルで、「この施設機能はこの地域に必要でしょうか、私は要らないと思います。」と発言される方がいらっしゃる一方で、「私はこの施設が必要だと思います。」と、テーブルの中で議論になったことがあったのです。その際に、この施設について、市はどう考えているのかという新潟市の方向性が問われました。ゼロベースで考えるということだったので、私たちはその際に答える術がありませんでした。よって、市がどうしていくかということをお示ししないと有益な議論ができませんので、そこを解消していくために、「市では再編案としてそれぞれの地域をこのように考えています。ただ、これが本当に良いことかどうかは分からないので、これから皆さまと話し合っ決めていきたいと思っています。」というものをお出ししたいと思っています。</p> <p>以上3つが私たちのお答えになります。</p>
<p>畠山委員</p>	<p>西川地域は50年前から合併するまで、地方交付税などを使って体育館や図書館を借金までして造りました。西川地域は美術館もありません、博物館もない、資料館もないです。人口も減っていますから、相対的に利用する人が減るのは当たり前ですが、地域の方々は喜んで使っています。そういった点から、葛塚、坂井輪、木崎などで行った計画と、西川地域のあたりはこういったような光景から、不公平だという意見が出てくるという予感します。もう少し具体的に説明を行っていただきたいと思っています。</p>
<p>事務局 (佐野財産経営推進 担当部長)</p>	<p>本日私たちとして再編がなぜ必要かという前段を説明させていただき、お分かりいただけないところもあるかと思っています。次回、またお邪魔した際に、実際に再編をどのように進めていくのか、具体的な手順など、その施設をどのように評価していくかということをお話したいと思っています。ただ、それをご説明しても、先ほどおっしゃったように、そもそも施設によって重要な施設、人が減ってきてても利用して喜んでいる方がいらっしゃるという事情は、私は市内どこも同一だと思っています。よって、利用状況が下がってきているけれども、市民の皆さまにとっては大切な財産だという認識には変わりません。</p> <p>ただ一方で、私たちも先ほど説明しましたが、これから一斉に建て替えや更新をどうしてもしなければいけなくなってきます。その全ての施設を建て替えしていくということは、新潟市だけの問題ではないということをお分かりいただきたいと思っています。全国的な問題、遡って言えば、かつて、笹子トンネルという高速道路の天井崩落事故がありました。あの事件が発端となったことで、国を始め各自治体で公共施設の維持管理、点検が非常に重要だということで、国からも施設再編等に伴って、施設を安心・</p>

	<p>安全にこれからも使用するためにはどのようなやり方が良いかという検討の依頼を国が行っています。したがって、私たちとしても、施設が残ればそれでいいのでしょうか、果たしてそれがずっと安全に使えるかどうかということは、少し難しいと思っています。ですから、最適化です。</p> <p>例えば、先ほど空きスペースの問題がありましたけれども、小学校の空き教室、ひまわりクラブなどはすでに最適化ということで空きスペースを上手く使用しているということをご理解いただいていると思うのですが、同じように一つの建物の中で複数の機能を持たせてあげられれば、それはサービス利用としてはかえって利便性が高くなるかもしれません。逆に、小学校の中にコミュニティ施設を入れることにより、色々な交流も生まれるでしょうし、例えば、小学校のお迎えなど、そういった利便性もあるかもしれません。再編の中では、私たちは一定のルールの中で、それは次にお話ししますが、地域の皆さまと話し合う中でより良いアイデアがもしかしたら出てくるかもしれないということを期待しています。</p>
<p>原委員</p>	<p>お金がかかって大変だということも、急いで計画策定しなければならないということも非常によく分かりました。しかし、今のところお金がなくて急いで取り組まなければならないということがフォーカスされすぎていて、今後どのような地域にしていきたいかというビジョンがよく分からなかったです。それと、ワークショップもそうですが、都市計画の専門家など良い導き手の方がいないと上手くいかないと思うのです。この5地域のワークショップはどのような方が参加されていたかとても気になります。</p> <p>もう一つ、例えば策定済みのところを見ると、小学校の統廃合が多いと思いますが、新潟市は地域との関わりをたくさん持つようにということで、各小学校に地域のボランティアの方が入っていると思うのですが、やはり小学校がその地域の中心となるのは皆さま分かっていらっしゃると思います。小学校などの施設がなくなった後どうなるかということまで考えて決めていらっしゃるのか、とても気になります。バス通学で賑わいが消えてしまって悲しいということも、他の統廃合した地域でもよく聞かれることだと思います。統廃合は仕方がないと思うのですけれども、中心としての小学校の役割や、統廃合した後のことについて検討されているのかとても気になります。</p>
<p>事務局 (兼島財産経営推進室長)</p>	<p>1点目のご質問ですが、各地域のビジョンと言いますか、どのような方向で今後まちづくりをしていけば良いのだろうか、再編とともにまちづくりの課題の解決というところが少しピンとこなかったというのはそういう趣旨かと思ってお伺いしていたのですが、先ほどのご質問の回答で申し上げたような地域の方々にお集まりいただいて、地域の課題に感じているところを皆さまの中で色々意見を出し合って共有していきます。それが大体第1回目のワークショップで行うことです。その再編を進めていながら、効率的な施設の使い方を模索していき、その解決にも寄与できる形の再編の仕方はどういう形があるかということも、こちらとしては皆さまに</p>

検討いただきます。

その中で、皆さまから色々なアイデアを出していただいて、幾つかの再編の姿のような複数案を、こちらでいただいた意見を基にいくつか形づくり、それをまた次回のワークショップに持ち帰ってご提示し、またそれについてご議論いただきます。「この案でその課題は解決できているでしょうか。」という評価で見ていただきます。評価軸そのものの確認等もして、ワークショップを進めていきます。

ワークショップの意見をまとめる導き手についてなのですが、ここは私たちも非常に重要視しています。先ほどの私の発言の中でも、テーブルの中で住民の方々の意見が分かれることがあります。分かれたときも、上手く導いていただく方、例えば、何が何でも反対だというような方もいらっしゃると思いますが、その真相と言いますか、そうおっしゃる原因は何なのかを深く問いかけていただける方、我々はファシリテーターと呼んでいるのですが、その議論の導き手に、テーブルに一人ずつついていただきます。私たち行政の人間はつきません。プロの方についていただきます。その方についていただくことによって、第三者が間に入って、市にこのことを確認しなければこのテーブルの中では議論が進まないというときには私たちがファシリテーターを介して呼ばれてご説明に上がります。基本的にはテーブルの中での議論はファシリテーターと呼ばれる導き手の方々がうまくリードしていただくということをやっています。

また、学校統廃合や、学校に限らずかもしれませんが、施設が統廃合した後の跡地、今後の利用の仕方なのですが、原則的には新たな公共の需要があればそこに何か公の機能を入れていくこととなります。もしそれもないということで、それは私たちのほうで判断するのですが、公の機能、ここに入れていく機能がないということであれば、そこは原則的には歳入確保のために更地にして売却するのが原則になっています。それが叶わないようであれば、貸し付けなどを行うことによって歳入確保を図っていくのが原則的なところになるのですが、跡地をどうしていくかということは住民の方々もとても懸念される場所ですので、ワークショップの中でそこまで議論するということは原則的に考えていませんが、計画を立てた後になると思います。その後の跡地をどうしていくかということはそういう形で話していくのが原則になります。ただ、どうしてもワークショップで皆さまと話し合っていないことには共通理解を得られないということであれば、ワークショップの中でも議論する可能性はあると思います。

実際鴻東地域もそうだったのですが、旧鴻東西小学校、鴻東東小学校、スポーツをテーマにした民間活用ですとか農業をイメージした活用ですとか、そういったところまで決めていたところではあったのですが、そこから先の実際の活用となると、計画とは別にまたその後の作業になってくるということになります。明確にここまできっちり跡地活用まで見届けていただくということは、ワークショップの中ではしていません。

原委員	<p>やはり、課題となると目先の課題になってしまいます。未来をどうするかなど、施設廃館後のことを考えていないとおっしゃっていたので、廃館後やはりあったほうがよかったとなっても仕方がないと思いますので、どうするかまで考えてワークショップをしていただかないと、後ほど困ったことになるのではないかと思います。時間もかかってしまうと思いますが、統廃合した後のことも全て考えていただけると嬉しいです。</p>
事務局 (佐野財産経営推進 担当部長)	<p>9ページに一番新しくできた木崎地域の実行計画がありますが、ここは笹山小学校が廃校になりまして、そこをどうするかということがワークショップの中でメインの議題になることもありました。そのワークショップの中で、やはり子育て世代の方だと、だれでも立ち寄れるような子育て機能もあるような施設ができると良いとか、新潟東港に近いので、産業振興の拠点として活用できたら良いなど、色々な意見が出たのです。それを基に、専門的な言葉で申し上げますと、サウンディング調査というものがあるのです。それによって民間事業者の方々から意見を募って、北区で8月に説明会を行いました。その際に数社から、こういうアイデアがあるということの後日、提案したいということで応募があったと聞いています。それが来月に実際に提案することになると聞いています。したがって、全くワークショップの中でスルーするわけではなくて、こういう非常に重要な施設についてはそういう議論をしたいということを最後に申し添えたいと思います。</p>
吉田委員	<p>質問ではなく要望になりますが、この予定を見ますと、12月に再編案等を区自治協議会へ説明ということになっています。本日もこれだけ質問がたくさん出てきていますので、ぜひ、時間をたくさん取っていただいて、また私たちも地域の課題を考える良い機会だと思いますので、そういった際に、区自治協議会委員30人だけではなく、説明を聞きたい方がだれでも参加できる仕組みを、地域によっては作っていただけると、より一層良い形になるのではないかと思います。どうしても再編となると、今使っている施設がなくなってしまうという思いが強くなって、それが先行になってしまうので、やはり、発展的なことも考えていかないと、今のことだけではなくて、未来のことも考えながら、そういった議論ができると良いと思いますので、ぜひその辺、慎重に行っていただければと思います。</p>
内藤委員	<p>潟東地域計画策定の際に、検討委員会のワークショップも何度も足を運びました。潟東地域では施設を集約しましたが、集約したのために味噌造りや陶芸などもできなくなりました。地域住民の声はあまり取り入れていただけなかったように感じます。</p> <p>かもん！カモねぎまつりについても、今は新型コロナウイルス感染症で中止となっていますが、毎年かも汁を2,000食出していました。施設集約化の結果器具がなくなったため、おそらくこれからは提供できなくなります。他の地域で施設を集約するときに、そういうことがないようにお願いします。</p>

小林委員	角田地区ですが、昔展示センターがありました。それが壊されて、跡地が今のところ宙に浮いている状態です。
事務局 (佐野財産経営推進 担当部長)	新潟県の施設でしょうか。
小林委員	県です。そういう事態にならないように、問題をきちんと解決した中で事業を進めてもらいたいと思います。跡地が非常に荒れてきていますので、すぐに事業が始められるような形をとってもらいたいと思います。
議長 (長井会長)	<p>まだまだ色々あると思います。私からもお願いですが、昔、小学校6校を2校に統合した際に、非常に切ない目にあいました。先ほど言われたようにパブリックコメントなど色々なことがありますので、統廃合についてきめ細かく説明をしながら進めていただきたいと思います。</p> <p>今回お話があったことについては一層きめ細かく担当課から進めていただくということで、本日のところはご了解いただきたいと思います。</p> <p>次に、その他ですが、始めに吉田委員からご発言があるということですので、お願いします。</p>
吉田委員	<p>ヒヤガーデンについてPRさせていただきます。</p> <p>毎年、巻観光協会ではビヤガーデンを実施しており、昨年は巻信用組合の駐車場で行いましたが、今年は10月15日に巻神社の境内で行います。これは西蒲区内にお住まいの方々、勤務する方限定ということで、新しい生活様式に合わせ、感染対策をしっかり行い、今の感染状況では神社で飲み物やビールも販売する予定としていますので、弁当も十分用意していますので、ぜひ皆さまご来場ください。</p> <p>それと、チラシはありませんが、もう1点だけ報告させていただきます。私はにしかんプロジェクトの事務局長もしてまして、10月10日、松野尾地域コミュニティセンターにおいて、松野尾地域コミュニティ協議会と共催でにしかんキッズフェス in 松野尾を開催します。こちらについては当日午前11時から午後3時まで、松野尾地域コミュニティセンターの前でキッチンカー5台と弁当、デザート5件ということで、感染対策をしっかり行い密にならないように、子どもたちから遊んで楽しんでもらうという催し物を開催します。またイベント等をご紹介したいと思いますが、しっかり感染症対策を行っていますので、ぜひ、見に来ていただければと思います。</p>
議長 (長井会長)	<p>これらの件について、ご発言はありますか。</p> <p>ないようですので、これらに関してはここで打ち切らせていただきます。</p> <p>最後ですが、ヒヤガーデンについてもそうですが、ぜひ、行政からよく指導していただきたいと思います。先ほどから申し上げていますが、新潟県はまだ新型コロナウイルス感染症の感染状況が油断できない状況ですの</p>

	<p>で、これから各地でいろいろ催しがあると思いますが、それらも注意しながら、西蒲区全体の活気のために開催していただければと思います。</p> <p>それでは、ご発言もないようですので、進行を事務局へお渡しします。</p>
<p>事務局 (金子地域総務課長 補佐)</p>	<p>長時間にわたりご協議いただき、ありがとうございました。</p> <p>最後に事務局から次回の西蒲区自治協議会についてご連絡します。次回の西蒲区自治協議会については10月28日木曜日の午後から、会場は巻地区公民館で開催します。改めて案内の文書を送付しますので、よろしくお願ひします。</p> <p>以上をもちまして、令和3年度第4回西蒲区自治協議会を終了します。ありがとうございました。</p>